

米国主要大学の研究公開ポリシーについて

2016. 12. 16

上席学術調査員 下田隆二

第4回の委員会で杉山滋郎先生から紹介されたシカゴ大学のほか、米国の代表的な大学であるスタンフォード大学（私立・西海岸）、カリフォルニア大学バークレー校（州立・西海岸）、マサチューセッツ工科大学（私立・東海岸）について、その研究公開に関するポリシーを各大学のウェブから調査した。以下、その概要（詳しくは参考資料参照）。

1. シカゴ大学

シカゴ大学では、秘密が関係する業務（"Classified" work）はシカゴ大学の名のもとに、または、シカゴ大学の施設・リソースを用いては、行わないと規定されている。なお、「秘密」が関係する業務（"Classified" work）は、連邦政府の研究資金提供機関または他の政府機関による「秘密」指定の下に行われる業務と定義されている。

ただし、大学の研究者が個人として秘密情報へのアクセスのためのクリアランスを受け、秘密情報が関係する領域で政府に対し（大学から）独立したコンサルタントとして業務に従事することができることとされ、また、アルゴンヌ国立研究所（ANL）では、所要の手続を経て、秘密が関係する業務に参加することができるとしている。

2. スタンフォード大学

スタンフォード大学では、研究の公開性の対する大学のコミットメントを表明しており、研究の公開性の原則を実施するため、秘密を求めるいかなる研究プログラムも、一部例外を除き、スタンフォード大学では行わないこととしている。また、秘密を求めるプログラムや許容される例外等を具体的に規定している。

秘密を要求しているとみなされる研究プログラムとしては；

- ・プロジェクトを設定するスポンサー書面やグラント書面の一部でも自由に公表できない場合、
- ・研究プロジェクトの過程において生み出される書面が、秘密とされるべき正当な権利を外部のスポンサーが持つ情報とその書面の公開によって漏洩しないことを確認するために必要とされる妥当な期間（90日）を超えて、スポンサーによる公表の規制の対象になると想定される妥当な根拠がある場合、
- ・プロジェクトの過程において秘密情報へのアクセスが必要となり、その情報が研究にとって極めて枢要であるために、秘密情報に通じていない研究グループの一員が知的に枢要なプロジェクトのすべての部分に全面的には参加することができなくなる場合を規定している。

また、以下の発表の一時的遅延と秘密保持に係る手続きは許容できるとしている。

(発表の一時的遅延)

特許申請目的又はスポンサーによる原稿のレビューとコメント目的の場合の短期間の遅延(90日を超えない)等を認めている。また、これを超える場合、3. 研究にとって最善である場合、副学長・研究部長は、より長い公表遅延となる契約の大学は承認することができるとし、その申請手続き(求める理由、誰が公表決定に権限を持つのかに関する説明、定められた期限内に研究者の公表を許す規定に係る書面等の明示等)を規定している。

(秘密保持)

研究プログラムにおいて外部の個人又は組織が研究者に秘密情報(confidential information)を提供した場合、秘密を保持する規定や、提供された秘密情報のいかなる部分も研究者が意図してか否かにかかわらず公開しないことを確認するために情報源が公表内容を審査する期間として研究成果の公表を短期間遅延させる規定を設けることは可とされる。

ただし、いかなる場合においても、学生の修士論文又は博士論文の時宜を得た提出や研修生の成果公表に支障となる公表の遅延延長の取決めや契約により規定されるプロジェクトに、教員は学生や研修生を参加させてはならない、としている。

また、例外的な場合として、輸出管理・その他の国家安全保障管理の対象となる他で創成された情報へのアクセスにより顕著にその目的を進展させることができる場合、その情報へのアクセスを参加研究者(複数)の一人に与える規定を行うことは可としているが、これを許容できる要件を限定的に定義している。

3. カリフォルニア大学バークレー校

カリフォルニア大学バークレー校は、アイディアのファカルティ及び学生の間でのすべてのフォーラム(教室、研究室、セミナー、集会その他)での自由な交流のためのオープンな教育研究環境の維持にコミットしているとし、外部からの研究支援を受けた結果として公表の自由への基本的な制限はあってはならない、としている。

具体的には、バークレーキャンパス¹は、スポンサーのいかんを問わず、プロジェクトの人員に単に秘密情報へのアクセスを許可し、また、秘密の研究サイトへの立ち入りを許可することのみを意図したものであっても、秘密(classified)の研究プロジェクトを受け入れない、としている。

また、公表の自由への基本的な制限を受け入れることは出来ず、従って、大学のプロジェクトに対し外部のスポンサーが拒否権や検閲権を持つ公表の制限を受け入れること

¹ 「キャンパス」としている点に留意。

は出来ないとしているが、スポンサーが刊行物をレビューし、(1) コメントや示唆を提供し、及び／又は、(2) 財産権的データが誤って公開されないことを確認するために、60日を超えない公表の遅延は受け入れ可能としている。(特許化が可能なアイデアに関して公表原稿を大学及び／又はスポンサーが審査する場合、90日を超えない公表の遅延も受け入れ可能である)。また、スポンサーの財産権的 (proprietary) データや試料へのアクセスを許可するスポンサード・プロジェクトは、これらデータや試料へのアクセス、使用及び保護に係る規制がグラントや契約下でなされた学術的な知見の全面的な流布を制限せず、かつ、大学に金銭的な責務を負わせない場合のみ、受け入れる、としている。

4. マサチューセッツ工科大学 (MIT)

オープンな研究と学術研究者間の自由な情報交換というポリシーの深遠なメリットは、MITの組織としての責務と国家全体の利益にとって必要不可欠であり、公開性は、秘密 (classified) 研究や成果が事前の許可 (例えば、研究を支援する政府や企業の許可) なく公表できない研究を、MITがキャンパス²内で行わないことを一般的なポリシーとして求めるとし、キャンパスで行われる研究プロジェクトの大部分は、研究の自由と知識のオープンな交換の原則に完全に即して行うことが出来るとしている。

他方、MITは、国家にとって重大な関心事となる科学技術の重要な分野で、ユニークな役割を持つ機関であるとの認識を示し、きわめて限られた場合には、研究成果の即時の拡散が社会の最善の利益とはならないこともある機微な分野の技術に係る場合があるとの認識を示し、このような場合、公開、秘密、並びに外国籍の学生及び学術研究者のアクセスに係るこれらのポリシーの例外が設けられる場合 (MITのミッションにとって極めて重要であって、かつ、国の利益にとって例外の必要性が明らかに求められる極めて稀な場合) があるとしている。研究プロセスの秘密、資金源の秘密、研究成果の秘密、若しくは、公表又はアクセスへの制限を求めるMITのアカデミックな組織 (リンカーン研究所を除く³) で行われる全ての研究は、Provostの事前の承認を得なければならないことを、MITのポリシーとする。

また、学生の学位論文も同様のポリシーが適用されるとしている。

² 「キャンパス」としている点に留意。

³ リンカーン研究所は国防総省が研究費を提供する Federally Funded Research and Development Center の一つであり、本ポリシーの適用対象外とされている。

(参考 1-1) 米国シカゴ大学の秘密が関係する研究の実施に関するポリシーの概要

シカゴ大学の秘密が関係する研究の実施に関するポリシー (University of Chicago Policy on Performing Classified Research⁴ : 参考 1-2 参照) の概要は以下のとおり。

1. 原則

シカゴ大学の秘密が関係する研究の実施に関するポリシー (University of Chicago Policy on Performing Classified Research) では、秘密が関係する業務 ("Classified" work) はシカゴ大学の名のもとに、または、シカゴ大学の施設・リソースを用いては、行はないと規定されている。

なお、「秘密」が関係する業務 ("Classified" work) は、連邦政府の研究資金提供機関または他の政府機関による「秘密」指定の下に行われる業務と定義されている。

2. 例外 (個人として及びアルゴンヌ国立研究所での活動)

大学の研究者が個人として秘密情報へのアクセスのためのクリアランスを受け、秘密情報が関係する領域で政府に対し (大学から) 独立したコンサルタントとして業務に従事することができるかとされている。また、アルゴンヌ国立研究所 (ANL)⁵では、米国エネルギー省 (DOE) の定める秘密が関係する業務のためのセキュリティポリシーと運用のもとに、秘密が関係する活動が一部で行われているとし、DOE からの適切なクリアランスを得て、シカゴ大学の教員は ANL において秘密が関係する業務に参加することができるとしている。

⁴ 本項の記述はシカゴ大学 "University of Chicago Policy on Performing Classified Research" (<http://ura.uchicago.edu/page/classified-research>) による。

⁵ DOE の委託により UChicago Argonne, LLC が運営する Federally Funded R&D Centers (いわゆる国立研究所) の一つ。

Classified Research

Classified Research

University of Chicago Policy on Performing Classified Research

POLICY: No classified work may be undertaken in the name of the University of Chicago or using University facilities or resources.

POLICY: The University's policy on performing classified work. ["Classified" work being defined as that work conducted under the specific designation as Classified by the Federal funding sponsor or other governmental agency] derives from two sources:

1. Board of Trustees Statute, 18.1, which says "The basic policies of The University of Chicago include complete freedom of research and unrestricted dissemination of information." This is obviously incompatible with classified research.

2. The report of the "Committee on Federal Grants and Contracts at The University of Chicago" dated June 1969. A summary of the report was printed in the University of Chicago Record, and included recommendations, one of which was:

"The Committee recommends that The University of Chicago...6. Accept no grants or contracts which impose conditions of secrecy or of prohibition of publication of results or which are classified as "secret" or "Confidential" or otherwise restricted as to openness, or which provide for consultative services involving restricted or classified information, issues, or operations, or which are otherwise inconsistent with free inquiry."

INDIVIDUAL SECURITY CLEARANCES: It should be noted that as individuals University researchers may hold classified security clearances and may act as independent consultants to the government in areas involving classified information.

CLASSIFIED WORK AT ANL: A limited amount of classified activity is carried out at Argonne National Laboratory under the security policies and practices defined by the U.S. Department of Energy for classified work. With the appropriate clearances from DOE, faculty of the University of Chicago may participate in classified activity on site at ANL.

(参考 2-1) 米国スタンフォード大学の研究の公開性に係るポリシー

スタンフォード大学の研究の公開性に係るポリシーについて同大学のウェブから調査した。以下、該当部分⁶の仮訳。

1. アカデミックカウンスル代議員会 (Senate of the Academic Council) 決議

(スタンフォード大学は) 研究の公開性の対する大学のコミットメントを表明し、成果の公表に係る制限を含む秘密を定義しこれを禁止するとともに、このポリシーの下で許容できる規定を特定する。研究の公開性の原則—すべての関心のある人々による、研究の基礎となるデータ、プロセス及び最終的な成果への自由なアクセスの原則—は最も重要な項目の一つである。研究の公開性の原則を実施するため、秘密 (定義は後出) を求めるいかなる研究プログラムも、第 4 項に規定するものを除き、スタンフォード大学では行わないことを評議会代議員会は決定する。

2. 秘密を要求しているとみなされる研究プログラム

以下のプログラムは秘密を要求しているものとみなす。

- ・プロジェクトを設定するスポンサー書面やグラント書面の一部でも自由に公表できない場合。
- ・研究プロジェクトの過程において生み出される書面が、秘密とされるべき正当な権利を外部のスポンサーが持つ情報がその書面の公開によって漏洩しないことを確認するに必要とされる妥当な期間 (90 日) を超えて、スポンサーによる公表の規制の対象になると想定される妥当な根拠がある場合。
- ・プロジェクトの過程において秘密情報へのアクセスが必要となり、その情報が研究にとって極めて重要であるために、秘密情報に通じていない研究グループの一員が知的に重要なプロジェクトのすべての部分に全面的には参加することができなくなる場合。

3. アカデミックカウンスルで採択されたルール

アカデミックカウンスルで 1967 年 9 月 29 日に採択されたルールは以下のとおり改訂する。

- (1) 課題設定時に秘密の修士論文又は博士論文となることがかなりの確度で予見される場合、修士論文又は博士論文のための研究は行わない。
- (2) 秘密の修士論文又は博士論文は学位の根拠として受け入れない。
- (3) 審査のために Advisory Board 全体でアクセスできない学者としての活動は、任用、再任用、または昇進の関連では考慮されない。
- (4) 寄付や契約が大学として次の事項のいずれかに関する公開の自由を制約する場合、大学は研究の実施に関する契約を締結せず、寄付を受けない。
 - ・契約や寄付の存在

⁶ <https://doresearch.stanford.edu/policies/research-policy-handbook/conduct-research/openness-research>

- ・行われる研究の概要
- ・外部の契約者・寄付者のアイデンティティ
- ・研究成果

ただし、a) 特定の研究の実施を求めている匿名の寄付の場合、b) プライバシー保護のための正当な理由で匿名を希望する個人又は非政府組織からの寄付や契約の場合は、本項は適用しない。

4. 許容できる規定を含む研究プログラム

(A) 存命の人

インタビューやその他の手法により存命の人を試験することを含む研究プログラムの場合、個人のプライバシー権の保護に係る妥当な規定を行うことは可。

(B) 国家安全保障規制

研究プログラムであって、輸出管理・その他の国家安全保障管理の対象となる他で創成された情報へのアクセスにより顕著にその目的を進展させることができる場合、その情報へのアクセスを参加研究者（複数）の一人に与える規定を行うことは可。ただし、国家安全保障管理に係る情報が研究プログラムにとって、十分に周辺的（peripheral）であることが必須である。周辺的（peripheral）の意味するところは、国家安全保障管理に係るデータと全体の研究活動との関係が十分に遠くなければならない、その結果；

- ・国家安全保障管理に係るデータへのアクセスが制限されている研究グループの一員が、知的に重要なプロジェクトの部分全てに全面的に参加することができる（つまり、アクセス制限のため知的に不利な立場に置かれない）、かつ、
- ・研究の最終的な結果のいかなる部分、あるいは、研究プロセスの些末な部分でも、これが2項において規定される以上の期間にわたる公表の規制対象となる実質的な懸念（substantial basis for an expectation）がないこと、である。

(C) 発表の遅延

スポンサー研究プログラムにおいて、スタンフォード大学とスポンサー間で以下の事情により研究成果の公表の遅延に係る契約を合意することは可。

1. プロジェクトの始期において、スポンサーが公表を抑圧したり、原稿に実質的な変更を課することを試みたりすると考える根拠が存在しない場合において、特許申請目的又はスポンサーによる原稿のレビューとコメント目的の場合の短期間の遅延（90日を超えない）

2. 複数サイトでの臨床研究であって、論文委員会（publication committee）が参加サイトからデータを受領し、共同での公表について決定を行う場合の、より長期の遅延（遅延はすべてのサイトでの研究終了から24月を超えない）。このような遅延は、スタンフォードの研究者が一定の遅延期間後に制限なく公表できることが保障されている場合にのみ許容される。

3. 研究にとって最善である場合、副学長・研究部長は、より長い公表遅延となる契約を承認することができる。このような契約承認の求めは；

- ・ 求める理由、
- ・ 誰が公表決定に権限を持つのかに関する説明、及び
- ・ 他の考慮事項にかかわりなく、定められた期限内に研究者の公表を許す規定に係る書面を含まなければならない。

いかなる場合においても、学生の修士論文又は博士論文の時宜を得た提出や研修生の成果公表に支障となる公表の遅延延長の取決めや契約により規定されるプロジェクトに、教員は学生や研修生を参加させてはならない。

(D) 秘密保持

研究プログラムにおいて外部の個人又は組織が研究者に秘密情報(confidential information)を提供した場合、秘密を保持する規定や、提供された秘密情報のいかなる部分も研究者が意図してか否かにかかわらず公開しないことを確認するために情報源が公表内容を審査する期間として研究成果の公表を短期間遅延させる規定を設けることは可。ただし、その規定には、①可能な限り迅速に審査すること、②提供した秘密情報を保護する以外のいかなる理由からも公表を阻害しないこと、③秘密情報の漏えいとなると情報源が考える文章を特定して指摘することを、情報源が保証する規定を含まなければならない。

(E) 個人的文書、日記等

研究プログラムにおいて、研究者に個人的文書や日記等が提供される場合、著者や名宛人の個人のプライバシーを守るために、これら文書等の秘密を守るための規定を設けることは可。

5. レビュー

本ポリシーは、最低、毎年、研究委員会(Committee on Research)でレビューされるものとする。研究ポリシーの改訂を検討するための会合は、委員会のウェブやその他適当な手段でアナウンスされるものとする。

(参考 2-2) 米国スタンフォード大学 : Openness in Research

1.4 Openness in Research

Expresses Stanford's commitment to openness in research; defines and prohibits secrecy, including limitations on publishability of results; specifies certain provisions that are acceptable under this policy.

1. Resolved

That the principle of openness in research - the principle of freedom of access by all interested persons to the underlying data, processes, and to the final results of research - is one of overriding importance. Accordingly, it is the decision of the Senate that this principle be implemented so that no program of research that requires secrecy (as hereafter defined) be conducted at Stanford University, subject to the provisions set forth in Section 4. of this Resolution.

2. A Research Program Shall be Regarded as Requiring Secrecy

That a research program shall be regarded as requiring secrecy:

- If any part of the sponsoring or granting documents that establish the project is not freely publishable
- If there is a reasonable basis for expectation that any documents to be generated in the course of the research project will be subjected by an outside sponsor to restrictions on publication for a period in excess of that reasonably required (more than 90 days) so that the sponsor can ascertain whether information he or she is entitled to have treated as confidential would be disclosed by publication
- If access will be required in the course of the project to confidential data so centrally related to the research that a member of the research group who was not privy to the confidential data would be unable to participate fully in all of the intellectually significant portions of the project

3. Rules Adopted by the Academic Council

The rules adopted by the Academic Council on September 29, 1967, are hereby amended and, as amended, are reaffirmed:

1. No research on a thesis or dissertation should be undertaken if, at the time the topic is set, there is any substantial possibility that it will lead to a secret thesis or dissertation.
2. No secret thesis or dissertation should be accepted as the basis for a degree.
3. Scholarly activities not accessible for scrutiny by the entire Advisory Board should not be considered in connection with appointments, reappointments or promotions.
4. The University should enter no contract and accept no grant to carry out research if the grant or contract restrains the freedom of the University to disclose the:
 - Existence of the contract or grant or,
 - General nature of the inquiry to be conducted or,
 - Identity of the outside contracting or granting entity or,

- The research results

provided that this clause shall not apply either (a) to anonymous gifts or grants that do not call for the performance of specified lines of inquiry, or (b) to research grants or contracts from individuals or non-governmental entities who request anonymity out of a justifiable motivation to protect individual privacy.

4. Programs of Research With Certain Provisions That Are Allowable

A. Living Human Beings

In a program of research involving the examination, through interview techniques or otherwise, of a living human being, reasonable provision may be made to protect the rights of that individual to privacy.

B. National Security Controls

In a program of research, the purposes of which would be significantly advanced by access to information generated elsewhere that had been subjected to export or other national security controls, provision may be made for access to that information on the part of one or several of the participating investigators provided that the information falling under national security controls is peripheral to the research program in the following sense: the relationship between the data falling under national security controls and the overall research endeavor must be sufficiently remote so that

- a member of the research group who is restricted from accessing the data falling under national security controls would nevertheless be able to participate fully in all of the intellectually significant portions of the project (i.e., would not be placed at an intellectual disadvantage by the access restriction); and
- there is no substantial basis for an expectation that any part of the final results of the research, or any but a trivial part of the research processes, will be subject to restriction on publication more enduring than those described in Section 2.

C. Publication Delays

In a program of sponsored research, provision may be made in the contractual agreement between Stanford and the sponsor for a delay in the publication of research results, in the following circumstances:

1. For a short delay (the period of delay not to exceed 90 days), for patenting purposes or for sponsor review of and comment on manuscripts, providing that no basis exists at the beginning of the project to expect that the sponsor would attempt either to suppress publication or to impose substantive changes in the manuscripts.
2. For a longer delay in the case of multi-site clinical research (the period of delay not to exceed 24 months from the completion of research at all sites), where a publication committee receives data from participating sites and makes decisions about joint publications. Such delays are permitted only if the Stanford investigator is assured the ability to publish without restrictions after the specified delay.
3. When it is in the best interests of the research, the Vice Provost and Dean of Research may approve contractual arrangements that could lead to longer publication delays. Requests for the Dean to approve such contractual arrangements should include:
 - the rationale for the request
 - a description of who will have authority over publication decisions, and
 - a statement of the provisions that will allow the investigator to publish within a defined period of time, regardless of other considerations.

Under no circumstances should a faculty member engage a student or trainee in a project governed by an extended publication delay agreement or contractual arrangement that could present a barrier to the timely submission of the student's thesis or dissertation or to the publication of a trainee's work.

D. Confidentiality

If, in a program of research, an outside person or entity has made available to the investigator confidential information, provision may be made to preserve confidentiality and/or a short delay in the publication of research results during which time the information source may examine the proposed publication in order to assure that the investigator has not disclosed, intentionally or unintentionally, any portion of the confidential information supplied, provided that any such provision for delay must contain assurance from the information source that they will conduct their review as expeditiously as possible, that they will not attempt to thwart publication for any reason except to protect confidential information previously supplied, and that they will indicate with specificity a sentence or sentences which they contend constitute such a disclosure.

E. Private Papers, Documents, Diaries or Analogous Materials

If, in a program of research, private papers, documents, diaries or analogous materials have been provided to the investigator, provision may be made to preserve the confidentiality of those materials for the purpose of protecting the individual privacy of the author, or of the addressee.

5. Review

This policy shall be reviewed at least annually by the Committee on Research in one of its meetings. This meeting and others primarily devoted to considering a revision of research policy shall be announced publicly through the website of the Committee on Research and/or other suitable means.

出 所 : <https://doresearch.stanford.edu/policies/research-policy-handbook/conduct-research/openness-research>

（参考 3-1）米国カリフォルニア大学バークレー校の研究の公開性に係るポリシーについて

カリフォルニア大学バークレー校の研究の公開性に係るポリシーについて同大学のウェブから調査した。以下、該当部分⁷の仮訳。

「公開性と公表の自由に係るポリシーガイドライン」

カリフォルニア大学バークレー校は、アイディアのファカルティ及び学生の間でのすべてのフォーラム（教室、研究室、セミナー、集会その他）での自由な交流のためのオープンな教育研究環境の維持にコミットしている。このような環境がすべての学問分野における研究の進展に貢献する。外部からの研究支援を受けた結果として公表の自由への基本的な制限はあってはならない。

公表の自由は、もちろん、公表の義務ではない。ファカルティの行動規範では、ファカルティの一員は、「知の利用、拡張及び伝達において批判的な自制と判断を行う義務を負う」とされている。外的な要因ではなく、この批判的な自制と判断が公表の内容と時期を決定すべきである。

○秘密研究（Classified Research）

バークレーキャンパスは、スポンサーのいかなることを問わず、プロジェクトの人員に単に秘密情報へのアクセスを許可し、また、秘密の研究サイトへの立ち入りを許可することのみを意図したものであっても、秘密（classified）の研究プロジェクトを受け入れない。秘密研究が受け入れられない主な理由は、(1) 結果としてキャンパスの施設のクリアランスが必要となること、(2) 必然的に公表の規制がかかることである。秘密のプロジェクトは、一般に、教育、研究及び公的サービスをミッションとするバークレーのキャンパスと相容れない。

○スポンサーの財産権的情報（proprietary information）の利用

スポンサーの財産権的データや試料へのアクセスを許可するスポンサード・プロジェクトは、これらデータや試料へのアクセス、使用及び保護に係る規制がグラントや契約下でなされた学術的な知見の全面的な流布を制限せず、かつ、大学に金銭的な責務を負わせない場合のみ、受け入れる。財産権的データや試料は、大学の研究者が受け取る前に、スポンサーによりそのようなデータ・試料であると必ずラベルされなければならない。スポンサーは、公表物におけるスポンサーの名前への言及を禁止することを求めているわけではない。

○研究成果の公表と普及

カリフォルニア大学は、公表の自由への基本的な制限を受け入れることは出来ず、従って、

⁷ Policy Guidelines Governing Openness and Freedom to Publish

<http://vcresearch.berkeley.edu/research-policies/policy-guidelines-governing-openness-and-freedom-to-publish>

大学のプロジェクトに対し外部のスポンサーが拒否権や検閲権を持つ公表の制限を受け入れることは出来ない。スポンサーが刊行物をレビューし、(1) コメントや示唆を提供し、及び／又は、(2) 財産権的データが誤って公開されないことを確認するために、60日を超えない公表の遅延は受け入れ可能である。いずれの場合においても、(公表) 内容に関する最終的な決定権が著者になければならない。特許化が可能なアイデアに関して公表原稿を大学及び／又はスポンサーが審査する場合、90日を超えない公表の遅延も受け入れ可能である。60日の遅延と90日の遅延の両方が該当する場合には、全遅延期間は90日を超えてはならない。

○物的な (tangible) 研究成果

バークレーキャンパスは、大学により生み出された成果やデータがスポンサーの所有となり、大学の学術目的での使用（他の研究者との情報の共有を含む）ができなくなるスポンサード・プロジェクト取り決めを受け入れない。物的な研究成果や製品（例えば、生物試料、化合物、コンピュータソフト、機械スペック、描画、図面）を商業的に普及することに係る大学の権利を制限することは、(1) グラントや契約において特定されている物的な成果物を対象とし、(2) 中心的な研究の知見の公表や非商業的な普及（学術目的での他の研究者への成果の配布を含む）を全く制限しない場合に限り、受け入れ可能である。

1991年5月

(参考 3-2) カリフォルニア大学バークレー校

POLICY GUIDELINES GOVERNING OPENNESS AND FREEDOM TO PUBLISH

The University of California at Berkeley is committed to maintaining a teaching and research environment that is open for the free exchange of ideas among faculty and students in all forums—classrooms, laboratories, seminars, meetings, and elsewhere. Such an environment contributes to the progress of research in all disciplines. There can be no fundamental limitation on the freedom to publish as the result of accepting extramural research support

The freedom to publish is, of course, not an obligation to publish. Under the Faculty Code of Conduct, a faculty member "...accepts the obligation to exercise critical self-discipline and judgment in using, extending, and transmitting knowledge..." The exercise of this self-discipline and judgment, not external factors, should determine the content and timing of publication.

Classified Research

The Berkeley campus does not accept classified research projects from any sponsor, even if such

classification is intended only to permit project personnel access to classified information and/or entry into classified research sites. The principal reasons that classified projects are unacceptable are (1) the resultant requirement for a campus facility clearance and (2) the inherent publication restrictions. In general, classified projects are not consistent with the teaching, research, and public service missions of the Berkeley campus.

Use of Sponsor's Proprietary Data

Sponsored projects allowing access to and/or use of the sponsor's proprietary data or materials Will be accepted only if regulations regarding access, use, and protection of such data or materials do not restrict the full dissemination of scholarly findings made under the grant or contract or put the University in a position of assuming financial liability. Proprietary data or materials must be labeled as such by the sponsor before release to University researchers. Sponsor requirements should not proscribe citation of the sponsor name in publications.

Publishing and Disseminating Research Results

The University of California cannot accept any fundamental limitation on the freedom to publish and therefore cannot accept publication restrictions which convey veto or censorship authority to extramural sponsors of University projects. Publication delays not exceeding sixty (60) days are acceptable so that a sponsor may review publications and (1) offer comments or suggestions and/or (2) determine that its proprietary data are not inadvertently disclosed. In either case, the final decision on content must rest with the author. Delays not exceeding ninety (90) days also are permitted so that the University and/or the sponsor may screen proposed publications for possibly patentable ideas. If both sixty- and ninety-day delays are applicable, the total period of delay should not exceed ninety (90) days.

Tangible Research Results

The Berkeley campus does not accept sponsored project agreements in which results and/or data generated by the University are owned by the sponsor and are not available for the University's scholarly purposes, including the sharing of information with other researchers. Restrictions on the University's right to commercially disseminate tangible research results and products (such as biological materials, chemical compounds, computer software, mechanical specifications, drawings, and schematics) are acceptable only if (1) they apply to a tangible deliverable item specified in a grant or contract, and (2) there is no restriction on publication or noncommercial dissemination of the central research findings, including distribution of the results to other researchers for scholarly purposes.

May 1991

出 所 : <http://vcresearch.berkeley.edu/research-policies/policy-guidelines-governing-openness-and-freedom-to-publish>

(参考 4-1) 米国マサチューセッツ工科大学 (MIT) の研究公開ポリシーについて

マサチューセッツ工科大学 (MIT) の研究の公開性に係るポリシーについて同大学のウェブから調査した。以下、該当部分⁸の仮訳。

有望な知的領域の研究と探索を奨励することは、MIT がそのファカルティ、学生及び社会全般に対して持つ最も基本的な義務の一つである。オープンな研究と学術研究者間の自由な情報交換というポリシーの深遠なメリットは、MIT の組織としての責務と国家全体の利益にとって必要不可欠である。公開性は、秘密 (classified) 研究や成果が事前の許可 (例えば、研究を支援する政府や企業の許可) なく公表できない研究を、MIT がキャンパス内で行わないことを一般的なポリシーとして求める。公開性は、また、外国籍のファカルティ、学生及び学術研究者が、これらの者が MIT にいる場合は、MIT の教育研究活動へのアクセスを制限されないことを求める。

キャンパスで行われる研究プロジェクトの大部分は、研究の自由と知識のオープンな交換の原則に完全に即して行うことが出来る。しかし、MIT は、国家にとって重大な関心事となる科学技術の重要な分野で、ユニークな役割を持つ機関である。知識の探究が、きわめて限られた場合には、極めて重要であるが研究成果の即時の拡散が社会の最善の利益とはならないこともある機微な分野の技術に係る場合があることを、MIT は認識している。このような場合、公開、秘密、並びに外国籍の学生及び学術研究者のアクセスに係るこれらのポリシーの例外が設けられる場合がある。例外が認められるのは、その業務が MIT の教育ミッションにとって極めて重要であって、かつ、国の利益 (national good) にとって例外の必要性が明らかに求められる、極めて稀な場合のみである。これらの条件が満たされない場合、MIT はその活動を拒否するか、その活動を継続せず、適切な場合には、キャンパス外やその他の場所でその活動を行うことを検討することを提案する。キャンパスにおける秘密研究あるいは制約された研究の実施は MIT のアカデミックな環境を激烈に変えるものなので、それぞれのプロジェクトは MIT 全体への影響を考慮してレビューされ行われることが必須である。

従って、研究プロセスの秘密、資金源の秘密、研究成果の秘密、若しくは、公表又はアクセスへの制限を求める MIT のアカデミックな組織 (リンカーン研究所を除く) で行われる全ての研究は、Provost⁹の事前の承認を得なければならないことを、MIT のポリシーとする。Provost は Faculty Policy Committee の助言を求めるものとし、すべての承認し

⁸ MIT Policies and Procedures, 14-2.Open Research and Free Interchange of Information (<http://web.mit.edu/policies/14/14.2.html>)

⁹ MIT では、Provost は、the President、the Chancellor、学院長 (Deans) とともに、MIT の教育研究プログラムを運営する責任を分担するとされ、chief academic officer として教育研究プログラムの予算及び計画に関する権限を持つとされる。
<http://orgchart.mit.edu/senior-leadership>

た案件について同委員会に情報提供するものとする。MIT での制約のない研究が国家安全保障に重要な場合、研究成果が学术界に情報提供されると同時に関連する政府機関にも情報提供されるよう、適切に努めるものとする。

学位論文は、学部生か大学院生により取り組まれるものかを問わず、MIT の研究プログラムの一部をなすものであり、キャンパスにおける秘密研究あるいはその他の制約付き研究に関する上述のポリシーの対象である。学生にクリアランス¹⁰や論文完成時のレビューを求める学位論文は、Provost の事前承認を得なければ、着手してはならない。大学院生の学位論文が関係する場合、Provost は既存のポリシーの修正を要する場合は Committee on Graduate School Policy の助言を求めるものとし、すべての承認した案件について同委員会に情報提供するものとする。

¹⁰ 引用者注：秘密情報へアクセスするための資格審査の意味と思われる。

(参考 4 - 2) 米国マサチューセッツ工科大学 (MIT) Open Research and Free Interchange of Information

14.2 Open Research and Free Interchange of Information

The encouragement of research and inquiry into intellectual areas of great promise is one of the most basic obligations MIT has to its faculty, to its students, and to society at large. The profound merits of a policy of open research and free interchange of information among scholars is essential to MIT's institutional responsibility and to the interests of the nation as a whole. Openness requires that as a general policy MIT not undertake, on the campus, classified research or research whose results may not be published without prior permission — for example, without permission of governmental or industrial research sponsors. Openness also requires that, once they are at MIT, foreign faculty, students, and scholars not be singled out for restriction in their access to MIT's educational and research activities.

The vast majority of on-campus research projects can be conducted in a manner fully consistent with the principles of freedom of inquiry and open exchange of knowledge. MIT, however, is an institution that plays a unique role in important areas of science and technology that are of great concern to the nation. It recognizes that in a very few cases the pursuit of knowledge may involve critically important but sensitive areas of technology where the immediate distribution of research results would not be in the best interests of society. In such cases, exceptions to these policies regarding publication, classification, and access by foreign students and scholars may be made, but only in those very rare instances where the area of work is crucially important to MIT's educational mission and the exception is demonstrably necessary for the national good. If these conditions are not met, MIT will decline or discontinue the activity and, if appropriate, propose it for consideration off-campus or elsewhere. Since the implementation of classified or otherwise restricted research on campus would drastically change the academic environment of the Institute, it is essential that each project be reviewed and acted upon in light of its impact on the Institute as a whole.

It is the policy of the Institute, therefore, that every research project within the academic structure of MIT (excluding Lincoln Laboratory) that requires a classification on the research process, classification as to the source of funds, classification of the research results, or imposition of other restrictions on publication or access must receive the prior approval of the Provost, who shall seek the advice of the Faculty Policy Committee and will inform the committee of all approvals. When unrestricted research at MIT is important to the national security, appropriate efforts will be made to ensure that relevant government agencies are informed of the results at the same time as are others in the scholarly community.

Theses, whether undertaken by graduate or undergraduate students, are an integral part of the research program of the Institute and fall within the statement of policy concerning classified or otherwise restricted research on campus as stated above. No thesis requiring that a student have a clearance or requiring a security review upon its completion may be embarked upon without the prior approval of the Provost. When graduate theses are involved, the Provost shall seek the advice of the Committee on Graduate School Policy in cases that involve modification of existing policy and will inform the committee of all approvals.

出所 : MIT Policies and Procedures, 14-2.Open Research and Free Interchange of Information (<http://web.mit.edu/policies/14/14.2.html>)